

令和5年度第3回江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

【日 時】 令和6年3月19日（火） 13時30分～15時00分
【場 所】 江差町役場3階 第2委員会室
【出席者】 委 員：出席11名、欠席6名 代理出席者：1名 同行者：3名 事務局：2名 事務局支援：1名
【議事次第】 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 (1) 令和5年度江差マース実証事業の実績報告について (2) 函館バス路線「館線・稲見線・木間内線」の廃止に伴う町北部の代替交通について (3) 令和6年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案について (4) その他 4. 閉 会
【会議要旨】 1. 開 会 ○ 事務局にて進行（委員出席者が過半数を超過しているため会議成立宣言）。 2. 会長挨拶 ○ 年度末のお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。 ○ 今年度3日目となる本日の会議では、今年度実施した江差マースの実証実験の運行実績について報告させていただく。その後に、過去の協議会で協議会した「館線・稲見線・木間内線」の廃止に伴う代替交通について、令和6年度事業計画案及び当初予算案についてお諮りさせていただく予定。 ○ 限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただきたいと思うので、何卒よろしく願います。 3. 議 題 (1) 令和5年度江差マース実証事業の実績報告について ○ 事務局から「資料1」により説明。 ・ 11月1日から2月9日まで約4ヶ月間、運行エリアを町内全域に拡大し、有償による実証運行を実施。併せて「館線・稲見線・木間内線」の廃止に伴う代替交通の実証運行という形で「北部通学・通院バス」も併せて実施。 ・ オンデマンド交通については延べ660人、1日平均9.7人の方にご利用いただいた。北部通学・通院バスについて乗車人数は8人となった。 ・ 事前登録者は221人で、そのうち利用された実人数は120人であり、約4割の方は事前登録のみで利用実績はなかった。 ・ 利用者のうち69%以上が60代以上の方となっており、平均年齢も66.6歳という結果となった。 ・ 時間帯別の利用実績では、朝一番（9：30～）の時間帯の利用が集中した。全体をみても午前中の利用が多く、午後以降の利用は若干低調となった

- ・ オンデマンド交通について、当初の目標であった1日あたりの乗車人数15人という目標は下回る形となったが、少しずつではあるが日数を重ねるごとに利用者が増加したことが見受けられ、地域での役割は一定数果たされていた。
- ・ 社会実装にあたって、今回の実証運行を踏まえた、運行時間や運賃等の運行方針の見直しを図りながら協議を進めて参りたい。
- ・ 運転手不足の問題は江差町も例外ではなく、江差マースをはじめ既存の公共交通の確保・維持につなげていくために、運転手確保にむけた取組は検討していかなければいけない。
- ・ 議題3でも説明するが、令和6年夏頃からのオンデマンド交通の本格運行開始に向け事務局で調整中。新年度に改めて本格運行以降の運行方針について、協議会でお諮りしたい。
- ・ 北部通学・通院バスについては非常に限定的な利用ニーズであることがわかった。バス路線廃止に伴う代替交通については議題2で説明するが、運行内容の見直しが必要。
- ・ 本の宅配サービス・貨客混載について、全体の利用実績は低調に終わった。今後地域での実装を見据えるのであれば、運送体制自体の抜本的な見直しが必要。運行事業者や商品を用意する事業者の負担感をクリアにしていかなければ、現時点で貨客混載の実装は難しいと考える。

- 事務局支援（日本データサービス・斉藤課長）から「資料2」「資料3」により説明。
- ・ さらなる利便性の向上を目的に、町内1,700世帯にアンケート調査を実施し、江差マースに係るアンケートは31.7%、本の宅配サービスに係るアンケートは29.9%の回収率となった。
- ・ 今回の実証運行を知ったきっかけとして、広報えさしで知ったという方が9割近くであった。一方WEBでアンケート回答を行った方については、公式LINEで知ったという割合も高かった。こうした状況を踏まえ、広報誌等のアナログでの周知に加え、公式LINEを活用したデジタルの両側面から周知を継続していくことが重要であると考えます。
- ・ 全体の7割以上の方が、本格運行開始後も江差マースを「利用したい・サービス内容によっては利用したい」という結果であった。一方、今後の改善点として運行曜日や時間帯の拡大や回数券での支払いという声があった。
- ・ 宅配サービスについては、本以外の日用品を宅配してほしいという要望があった。
- ・ 回答者156人のうち、33人が函館バス路線を利用している。この方々の江差マースの利用実態として、12月から2月までの期間で推計延べ199回となっており、1日あたりに換算すると2.3回の利用となる。現状町内を走る函館バス路線は1日あたり47便となっており、1便あたり0.05回となるので、影響としては非常に少ないものであり、共存・共栄が可能であると推測できる。

【以下、質疑等】

①－1（酒井委員）

- アンケート調査結果から、利用していない1番の理由が自動車を日常的に使用しているからということで、このような方々にすぐに江差マースを利用してもらうということはハードルが高いと思うが、2番目の理由に登録・利用方法がわからなかったからという項目があり、江差町として住民説明等の周知を非常に熱心にやっていただいたにも関わらず、このような結果になってしまっているのは難しいところだと感じるが、引き続きの周知活動を行っていただければと思う。

①－2（事務局）

- 住民説明会や広報誌への掲載というのはもちろんのこと、それ以外にもスーパーなどのお店での利用相談会やイベント開催時の限定運行の実施といった、できるだけ多くの人に目に入るような形での取組はさせていただいた。もっとこうやればよかったのではないかというご意見があるのは当然のことではあるが、どちらにしても来年度から本格運行をしていくにあたり、実際に利用されている方からの口コミのような効果は非常に大きいと思っている。役場としてもそのようなつながりは大切にしていきながら、先ほど申し上げたイベント開催時の限定運行や相談会、町内会会合への出席などをとおして地道な取組を継続的に実施していくことが重要だと考える。これは当然江差町役場主導で進めていくことにはなるが、今日出席していただいている皆様も含めまして、地域住民の皆様の御協力という点は、公共交通に関して必要不可欠であると考えているので、引き続き御協力いただきながら、来年度の本格運行を進めていただければと思う。

②-1 (室井委員)

- 当初の目標である1日あたり15人の乗車は達成できなかったものの、運行を重ねるごとに利用者が増加傾向になったということは非常に喜ばしいところ。実際に利用された方からは、とても便利だったので早期の本格運行を望む声も聞いている。本格運行の開始が7月になるのか8月になるのかはわからないが、なるべく早めに本格運行を開始していただけるとうれしい。

③-1 (小笠原委員)

- 現在家族の車に乗っている方や、自分で運転している方についても、数年後には利用したいということはあると思う。通院していても、朝はバスが走っているが帰りの時間帯には走っていないということもある。

④-1 (佐々木委員)

- 運行を重ねるごとに利用者が増えているという点は評価できる。予約方法についても、LINEの使い方がわからない高齢者からすると、役場で受付する電話予約の形があったことは非常にありがたいと感じる。
- 運賃について、買い物にいくにしても、往復で1,000円かかってしまうのは少し高いと感じる。
- 免許を返納した方にとっては特に必要不可欠なサービスとなっていくと思うので、免許をもっていない、もしくは手放した方、手放すことを考えている方への継続的なアプローチが必要であると考えている。

④-2 (事務局)

- 利用者数については、お三方からもあったとおり増加傾向になってきたのは良かったが、目標を下回ったという結果については冷静に受け止めなきゃいけない。もっと使うためには何が必要なのかという点は一つずつ細かくみていく必要はある。過去の実証実験を踏まえれば様々なデータがあるので、これらを集結しながら、まずは夏頃を目処にしていくが、利用者からの早期本格運行開始を望む声もありますので、ここも意識しながら進めていきたい。
- アンケートの部分で、運転免許の保有状況及び自動車の運転意向について、資料2の7ページ・8ページに記載のある、全体の約7割の方は車も免許も持っているという状況。先ほど酒井委員からもあったが、免許を持っており、十分に運転が可能な方々に対し、全面的に公共交通機関を使用していただくのは難しいと感じる。まずは高齢者の方や学生といった、今まさに公共交通を必要としている方々にどのように行き届かせるかが重要と考える。全てのニーズに応えるというのは現実的にも難しいので、実際に利用されている方々を大事にしながら、そこに少し付け加える形で、何を改善したら乗ってくれるようになるのかを意識しながら進めていけると良いのかなと思う。

- 9ページをみると、全体の約3分の1の方が、公共交通が便利になれば利用頻度が増え、車の運転頻度が減ると回答している。いきなり車や免許を手放すという話ではないと思うが、少なくとも公共交通の利用頻度があがるということはこの結果からも見受けられるので、江差マースも利便性をよくしていきながら気軽に乗れるようなサービス設計ということでこだわりながら進めていけたらと思う。

④-3（田畑会長）

- 路線バスを利用し、決まった時刻表で指定のバス停まで行くのか、バスと比較すると高価な料金をはらってハイヤーを利用するのか、その間の部分で江差マースを使っていたのか、それぞれ料金の差別化を図らなければいけない。
- 江差マースを認知していただく、どのように利用者を増やしていくかという点で、一度乗っていただいて口コミで広めてもらうという形が理想。町内会や老人クラブ等に周知を行いながら、江差マースの利便性について実感してもらわないといけないと思っているので、進化形で制度設計をしていくので、本格運行に向けて引き続きよろしく願います。

(2) 函館バス路線「館線・稲見線・木間内線」の廃止に伴う町北部の代替交通について

- 事務局から「資料4」により説明。
 - ・ 令和5年度に実証運行を行った「北部通学・通院バス」についての実績は先ほどの議題で報告したとおりだが、この結果を踏まえた新たな交通サービス「北部乗合タクシー」を4月から運行していく。
 - ・ 「館線・稲見線・木間内線」の廃止に伴い交通空白地となっている江差町北部「鹹川町・朝日町・小黒部町・中網町・越前町」の5町に居住する住民を対象に、乗合タクシーを運行。
 - ・ 過去の調査結果から、江差高校への通学、江差病院への通院という2通りの使われ方が主なニーズとなっていることから、この2施設への運行に特化した形で実施。
 - ・ 令和5年度の実証運行は非常に限定的な利用状況となっていたため、事前の利用者登録は不要とし、電話予約のみで利用可能という形態を想定。
 - ・ 実証運行の際にLINE予約を利用した方がいなかったということから、運行開始時点では、運行事業者である檜山ハイヤーに電話で予約していただくこととする。
なお、江差マースの本格運行開始時にLINEと連携するかという点については、経費的な面も踏まえ総合的に判断。
 - ・ 運行日は平日週5日とし、既存のバス路線の中で実際に利用実態のあった運行ダイヤに準じた時間設定とし、予約のない便については運行しない。
 - ・ 運賃については、実証運行時と同じく、1人あたり一律で300円に設定し、支払いは現金のみとする。
 - ・ 同じく江差町北部「五厘沢町・水堀町・柳崎町・伏木戸町」については、地区内で函館バス路線が運行されていることから、バス路線への影響を考慮し、運行開始時点では、北部乗合タクシーの対象外としている。
 - ・ 本日の協議会で決定した運行方針については、町北部住民を対象とした説明会を21日に実施する予定。

①-1（佐々木委員）

- バス路線の廃止によって空白地帯となるので、人数の多い少ないにかかわらず、このような形で実施していただければと思う。

①-2（田畑会長）

- 佐々木委員のおっしゃるとおり。今回このような方針でお諮りさせていただいたの

で、地域の方にもしっかりと周知していく。

(※異議等なしのため、「資料4」のとおり承認、軽微な修正は事務局へ一任で合意)

(3) 令和6年度事業計画(案)及び当初予算(案)の提案について

○ 事務局から「資料5」により説明

- ・既存の公共交通や江差マースを含め、交通事業者や関係団体との協議は通年をとおして進めていく。
- ・7～8月頃を目処に江差マースの本格運行を開始する計画。前段として新年度5～6月にかけて、令和6年度1回目の協議会を開催し、本格運行時の運行方針について事務局から提示する。
- ・春先の早い段階で専門部会を開催し、今回の実証運行を踏まえたより詳細な分析・見直しを進め、それらを経て1回目の協議会を開催していく想定。
- ・当初予算案について、歳入歳出ともに3,875,000円と、前年度の当初予算から約2,000,000円増額という形で計上。
- ・歳入については江差町からの負担金を計上しており、こちらの予算については令和6年第1回江差町議会定例会において成立しているところ。
- ・歳出については事業費が前年度に比べ増額しており、内訳としては地域公共交通計画推進支援に係る委託費や、住民の皆様にもわかりやすく利用方法等がわかるような「地域公共交通ガイドブック」を、江差マースの本格運行に併せて作成予定。
- ・令和6年度第1回目の協議会において、江差マース本格運行に要する事業費を、協議会の補正予算という形で改めて提案させていただく。

(※異議等なしのため、「資料5」のとおり承認)

(4) その他

○ 函館バスから「参考資料」により令和6年度の時刻改正について説明

- ・毎年4月と10月にダイヤ改正を行っており、令和6年4月には江差町内を走る「館線・稲美線・木間内線」の廃止、函館江差線の日曜・祝日の一部運休、江差木古内線の時刻変更、空白時間帯を埋めるため江差高校と江差ターミナルを結ぶ633系統の新設を行った。
- ・乗務員不足が主な原因でこのような形となってしまうご不便をおかけするが、江差マースとともに、公共交通を守っていきたいと考えているので理解を求める。

4. 閉 会

- 北海道庁から派遣されていた滝口主事による挨拶